

日本セラミックス協会会長メッセージ

(日本電気硝子株式会社 代表取締役 取締役会長) 有岡雅行



(1) 学会会長としてのメッセージ

新型コロナウイルスが全世界に拡大し、収束まで長期化する様相を示しています。日本においても新型コロナウイルスの感染防止のため緊急事態宣言が発出され、一旦は収まったかのように見えたが、緊急事態宣言の解除後、経済活動の再開とともに再び感染の拡大が全国的に広がる事態に陥っています。当面の間は、経済とのバランスの中で苦慮が続くと思われます。当協会においてもその影響を受け、昨年度末の年会在地開催中止となるなど残念な事態になりましたが、昨年度全般を振り返れば、昨秋に沖縄で開催した PACRIM13 の成功やアジア版ジャーナル ” Journal of Asian Ceramic Societies ” に「2.395」という高い IF (インパクトファクター) が付与されるなど、関係者の皆様のこれまでの活動へのご尽力が成果として実を結んだ年度でもありました。今年度は新しい 2020-2022 年度中期経営計画のスタートの年となり、前中期経営計画の進捗を踏まえつつ、更なる協会活動の活性化を目指し、Our Mission (目的)、Our Vision (ありたい姿)、Strategy (戦略) を明確にして、体系的に取り組んでいきたいと考えております。

新型コロナウイルスの完全収束には相当な時間を要すると思いますが、当協会が担うセラミックスは「豊かな未来・夢を実現させる」重要な素材であり、こうした困難な時代であっても益々その発展が期待されているものと心得、邁進していきたいと考えます。

(2) 学会の使命と現状の課題

「セラミックスの科学・技術に関する基礎・応用研究の進歩・向上及びセラミックス産業の発展並びにこれらの基礎となる人材の資質の向上を図る」ことが使命と考えています (定款目的)。

中計に Strategy として記載した、①社会への価値提供 (社会に対する協会価値向上を目指す)、②協会活動の活性化 (協会内外組織間の連携を強化し、若手研究員の活動支援を推進する)、③協会の組織力強化 (継続的に会員サービスを見直し、健全な財政基盤を維持する)、の 3 点を主要課題ととらえています。

(3) 現学会は蛸壺化、閉塞感はないか、最新研究・教育の場となりえるか

蛸壺化、閉塞感はありません。関連学会と相互での共催や協賛事業も多く、また、理事の先生方が他学会会員でもあることも多く、情報交換や連携が行われています。

最新研究・教育の場となりえるか? に対しては、なりえると考えています。多くの学生会員が在籍しており、協会が提供している研究発表会やセミナー、講習会などが教育の場となっているとともに、大学と産業界との情報交換や人的ネットワークづくりを通じて、最新研究情報入手に寄与できていると考えています。

(4) 政策提言・要望 (お考え、課題があれば)

「公益法人認定法の財務基準の見直し」に対して、学協会の意見を取りまとめて頂いていますが、この基準見直しは、学会の存続発展にとって必須と思われます。一学会では内閣府との折衝がままならないので、学協会共通課題であることを踏まえて、政府への働きかけを強くお願いします。

(5) 化学連合へ期待すること

各会員 (学協会) の活動を尊重しつつも、単独の学協会では難しい課題 (例えば、上述の法制度の見直し・改善) への対応を期待します。メルマガ等を利用した省庁や国際間に関する情報等の伝達があるとありがたいです。